一般質問通告書

令和7年 8月25日

高島市議会議長 河越 安実治 様

高島市議会議員 9 番 是永 宙

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が2以上ある場合は、次のどちらかに○をつけてください。

- ・質問番号1の用紙にだけご記入ください。
- ・質問が一つだけの場合は必然的に1となりますので、記入は不要です。

初問は { 1. 全項目一括質問一括答弁
②. 項目ごとに一括質問一括答弁

(質問番号 1) 発言事項	「香害」への対応とその原因物質による環境問題
要 旨 (項目だけでなく、質問の趣旨が理解できるように記入してください。)	<p>昨年2024年の6月定例会で取り上げた、「香害」や化学物質過敏症について、改めて取り上げます。昨年の質問以降、相談窓口の開設や、ポスターによる啓発など取り組みが始まっていますが、その後も市内外の人から香害に関する相談は寄せられています。香害や化学物質過敏症の理解が広がっているとは言えないと考えています。</p> <p>つい先日になりますが、2025年8月20日に香害・化学物質過敏症についての全国的な調査の報告が発表されました。調査報告では、北海道、新潟、兵庫など9都道県の21自治体の小中学生約8千人と、幼稚園や保育所の未就学児約2千人から回答を得て、衣料品の洗剤や柔軟剤に含まれる香料によって小中学生の10.1%が、未就学児を含めた全体では8.3%の子どもたちが頭痛や吐き気などの症状に陥った経験があったとしています。</p> <p>今回の調査に参加した明治大の寺田良一名誉教授(環境社会学)は、体調不良の多くが教室で起きているとして「香害で学習環境が損なわれている」と指摘しています。健康面はもちろんです。子どもにとって適切な学習環境を準備できているのか懸念を持っています。</p>

近年、香料による健康被害の報告が相次いだせいか、洗剤のテレビコマーシャルも香りを謳うことは少なくなっています。香りに代わって、抗菌や消臭がキャッチフレーズになってきていますが、抗菌・消臭物質も化学物質であり、化学物質過敏症の人や香害に苦しむ人には、香料と同じように影響が出てしまいます。

香害をもたらす原因の一つにマイクロカプセルの存在があります。香りを長持ちさせるために使われるマイクロカプセルは他のものに付着しやすい、という性質があります。普通、匂いが気になればその発生源から距離を取れば、匂いが薄らいでいきますが、マイクロカプセルは人体や衣服はもちろん、硬貨や紙幣、店頭の商品、建物の壁などにも付着します。なので、いくら化学物質に気をつけていても、マイクロカプセルが付着したものに触るなどして、自分の身体や衣服、持ち物に付着すると長時間、香りの物質に晒され続けることとなります。また、郵便物や宅配物と一緒にマイクロカプセルが“自宅に届けられてしまう”というようなことも起こるので、香害に悩む人はこのマイクロカプセルの性質によって、どこにいても気が休まらない日常を送ることを余儀なくされています。

厄介なマイクロカプセルですが、環境問題という側面もあります。マイクロカプセルにはプラスチック樹脂が使われているものがあり、マイクロプラスチックの性質も持ち合わせていることとなります。環境省は大きさが5mm未満の微細なマイクロプラスチックによる海洋汚染の深刻さを認識して、海洋に流出しないよう発生抑制・排出抑制に取り組んでいます。高島市の場合、柔軟剤などに含まれているマイクロカプセルは琵琶湖に流れこみます。今後、そのことで琵琶湖の環境汚染につながるのではないかと危惧しています。このように、香害の問題は個人に対する健康被害だけでなく、公衆衛生上の問題、さらには環境問題でもあることを私たちは認識しなくてはならないと考えます。

これらのことを踏まえ、以下、問います。

<香害の相談状況>

問1 昨年から香害の相談窓口が開設されていますが、相談状況はどうなっているか？同様に、学校や子ども園などに相談は寄せられているか？

<実態把握>

問2 そもそも高島市で、どれくらいの人が香害で悩んでいるかわからない現状があるので、実態調査を実施してはどうか？

問3 学校では毎年度、保健調査票を保護者に配布して子どもの発育状態・健康状態・生活習慣や病歴などの把握をしているが、その項目に香害の項目を入れてはどうか。

<啓発の取り組み>

問4 「消費者庁・厚生労働省・文部科学省・経済産業省・環境省」の5省庁連名の香害啓発ポスターを作成していますが、高島市はどのような施設に掲示をしているか。
ポスター掲示以外の啓発の取り組みはあるか？

<学校園での香害を減らす取り組み>

問5 先に紹介した実態調査報告によると、小中学生の約1割が頭痛や吐き気などの体調不良の経験があると回答している。これは個人的な香りの好き嫌いを越えていると考えられ、“香り”に対する抜本的な対策が必要だと考える。特に学校やこども園では、教員、職員、そして保護者に対しても「香料自粛」を呼び掛けることも必要ではないか。
また教職員に対する香害について理解を深めるための研修会を開催しているか。

<災害避難時の退避スペース>

問6 災害時には多くの人が避難所を利用することになるが、どうしてもワンフロアに大人数を収容する形になってしまうので、香害に悩む人は避難所の活用をあきらめるという声を聞いている。避難所のスペースの問題はあるが、例えば、学校などの大規模な広域避難所であれば、「香料フリー」の退避スペースをつくって配慮することも必要だと考えるが、見解を問う。

<環境問題としての香害>

問7 琵琶湖の環境を守るという観点から、県や国に対して、マイクロカプセルの入った柔軟剤の製造や販売の規制を求めるなどの対応を検討してはどうか。